

あせ道通信

第106号
石川農園

将来に不安を抱きつつ 今年も豊作に喜ぶ

今年の天気は、春はぐずぐずく日が多く、GW期間中の10日間は連日に渡り雨の降る肌寒い日が続き、田畑の仕事がまったく出来ず、蒔いた種も芽が出ず、大幅に仕事が遅れました。でも連休が明けてからは晴天が続き、田植えなど遅れていた作業が挽回できました。

その後6月に入つてからは、好天が続きましたが、今度は雨の降らない日が7月にかけて続き、干ばつで露地野菜や玉ねぎなどの畑作物の生育に影響が出ました。ところが7月下旬の小麦収穫期になって雨が降り続き、収穫作業を困らせました。十勝地方では、長雨の影響で麦の穂発芽が大量発生し大きな減収になりました。

稲の生育は、暑い夏に恵まれ冷害の心配もなく順調に進

み、今年も豊作間違いなしと思われたのですが、お盆を過ぎてから再び雨の日が続きました。田んぼの水は早めに落したのですが、豪雨やにわか雨の日が続き一向に田んぼが乾きません。生育が順調だったことで、収穫期も早まり9月上旬には刈り始めなくてはならないのですが、田んぼが乾かなくては機械も入つていけない状態。表面水の溝切り



をするなど排水を促したのですが、結局ぬかるんだ状態で、稲刈り作業となつてしまいました。

それでも、おかげさまで昨年に次ぐ収量があり品質も上々で、喜ばしい豊作となりました。当初「今年は10年に1度の凶作年かも?」と心配していたのですが、幸いにズレてくれて喜んでいます。

それにしても、近年天気が全国的に極端な現われ方をしています。雨が降ればダラダラと長雨だったり、局地的な豪雨だったり。晴れが続けば、1週間も2週間も続いたり、本州では40℃の猛暑日があつたり。台風が10月になつても発生したりと、地球全体の気候が狂つてきている感じがします。農業者は気候に応じた栽培をしているのですが、どんなに科学が進んでも、気象を都合良く変えることはできません。平均気温が2℃上昇する、海面水位が1cm上昇する、などの情報は我々には大した変化に思わないのですが、作物や動植物には大きな変化であり影響があるのです。

そんな中で今、TPP交渉が年内妥結に向けて盛んに行

われていますが、世界中で干ばつや洪水が頻繁に起き、農作物の被害が出て いるのに、一部の農業国だけで世界の食糧を支配しかねない誤つた貿易ルールは、決して許されるものではないと思います。必ずや後世に大きな禍根を残すことになります。

国民の食糧は、自国で賄うことを基本的に貿易交渉しなければ国は滅びてしまいます。いざ有事になった時、食糧が強い武器になるのです。平和ボケした日本国民や政府には

それが解らないでしょう。

とかくこの問題は、農業者・農業団体だけが騒いでいるかの如く報道されてますが、食糧を生産しない消費者こそがもつと気づき、強く訴えるべきだと思います。食の偽装や放射能汚染の問題と同じように、食糧を外国に委ねようとする政治にもつと意見するべきではないでしょうか。

そんな不安を抱きながらも、我々農業者はこれからも黙々と土を耕し農作物を作つていきます。

石川農園 商品ラインナップ

品種/種類	10kg	5kg	15kg
ななつぼし	白米 3,200円	1,700円	4,700円
ゆきひかり	玄米 2,900円	1,500円	
ゆめぴりか	白米 3,800円	1,900円	
	玄米 3,400円	1,700円	

※白米=普通白米・無洗米・3分搗き・5分搗き・7分搗き全て

もち米 5kg 2,000円 <ず米 1kg 100円
米ぬか 3kg 200円 稲ワラ 1束 100円
黒米(古代米) 1袋 300g 400円 小豆 1kg 500円
もみがらクン炭 50kg 500円 生もみがら 10kg 200円

地方発送料金 30kgまで同じ料金
道内全域 500円 東北 900円
関東・信越 1,000円 など
配送は宅急便

お米の配達は
毎月8・18・28日午後~
お申し込みは
電話 011-378-1618
090-8274-7598

台湾

烏山頭水庫(ダム)を訪ねて

先月17日から4泊5日で台湾に行ってきました。台湾は日本に最も近い国で、面積は日本の九州よりやや小さく、人口は約2300万人。国連では中華人民共和国の一部とされていますが、れっきとした独立国です。

日本との交流がとても盛んで、北海道では新千歳空港をはじめ旭川・函館空港から定期直行便が飛んでおり、台湾からの観光客が近年とても増えています。

かつては日本の植民地(明

治28年から昭和20年までの50年間)だったことから、日本統治時代の建造物が残されています。私たちは「烏山頭水庫(うーさんとうダム)」を訪ねてきました。台湾南部のまち台南市から車で約1時間。高い丘にダムはありました。

1895年日清戦争で勝利した日本は、清朝(当時の中

国)から割譲された台湾を植民地として統治が行われました。台湾南部の嘉義県から台南県にかけて広がる大きな嘉南平野は農業地帯なのですが、毎年、雨季には洪水に襲われ、田畑や家が流される。乾季には干ばつになりやすく、せっかく育った作物も途中で枯れてしまう。また、海岸近くに住む農民は、飲み水に不自由し、4〜5時間もかけて水汲みにいくという悲惨な生活を送っていました。

そこで日本政府は、土木技術者 八田興一(はつたよいち)氏を現地に

送り込みました。

八田氏は、石川県金沢市生まれで、東京帝国大学現・東京大学土木科出身。台湾の人々は、日本人が来ても、それまでの統治者オランダと同じだろうと思っていました。しかし、八田さんは日本国内と同じような、いやそれ以上の熱意をもって、台湾の開発を始めたのです。

八田さんは台湾中の山や

谷、原野を歩いて、ダム建設地の調査をしました。赤痢やマラリアといった恐ろしい伝染病の

潜む所にも、先頭を切つて分け入つていきました。そして、現在の場所を選び、ダムを造つて嘉南平野に水路を張りめぐらす計画を立てました。皆、その計画書を見て驚きました。台湾総督府の予算の6分の1の資金を必要としたのです。

八田さんの熱意は総督府と日本政府を動かし、大正9年に工事が始まりました。

マラリアは猛威を振るっていました。そのため600人に近い日本人兵士が病死しまし



と、飛んでいって叱りつけました。ついには彼らの家の一軒一軒を訪ね、薬を飲ませ、ちやんと彼らが

た。ダム工事現場で働く労働者も、例外ではありませんでした。八田さんは、原生林の広がる未開地で働く台湾人の労働者の健康を気づかい、定期的に薬を配りました。しかし、彼らは副作用を嫌って飲みませんでした。

八田さんは一人ひとりを並ばせ、直接、口に丸薬を入れますが、みんなは後で道に吐き捨てました。それを知ると、飛んでいって叱りつけました。ついには彼らの家の一軒一軒を訪ね、薬を飲ませ、ちやんと彼らが飲みこむまでは、その家を立ち去りませんでした。そのおかげで、マラリアにかかる人は少なくなります。

3年目には、トンネルの工事でガス爆発が起きました。50数名が亡くなり、多くの重傷者が出ました。八田さんは、すぐに台湾人の犠牲者の家の一軒一軒を回り、心から弔いと慰めの言葉を伝えました。遺族たちは、その言葉を押しいただくようにして声を上げて泣きました。

八田さんも責任を重くうけとめ、工事を中断しなければなりません。しかし、八田さんを励ましたのは、台湾の人々でした。八田さんがどんなに台湾を愛しているかを知っていたからです。

こうして烏山頭水庫は東洋一のダムとして、10年の歳月をかけて、昭和5年にできあがりしました。水は網の目のように引かれた水路によって、嘉南平野の全域にとどけられました。その水路の総延長は1万6千^キ。東洋一大きなダムで、アメリカにもこの規模のダムは数える程度でした。灌漑できる面積は南北100^キ、東西71^キの15万^ヘ。

完成後、世界大戦となり八田さんはフィリピンの開発に行くことになりました。しかし、その船が東シナ海でアメリカ軍に沈められ、昭和17年、57歳で亡くなりました。

完成して80年経つた今では、ダムの一部が、「烏山頭水庫公園」として整備され、八田さんの功績をたたえ銅像が建てられていました。

日本人には知られていなかった偉人が台湾にいたことに、同じ日本人として誇りに思いました。

